



だんじり彫刻の魅力を再考する 彫物展示・講演会

岸和田彫の源流を求めて

彫物ひねもす博覧会

淡路の太鼓台と岸和田の地車

令和元年 六月一日(土) 九時から二十時半

会場 岸和田市浪切ホール・1F多目的ホール 入場無料

主催：だんじり彫刻研究会

〒596-0074 大阪府岸和田市本町 7-19 (賢申堂内)

電話 072-438-1068

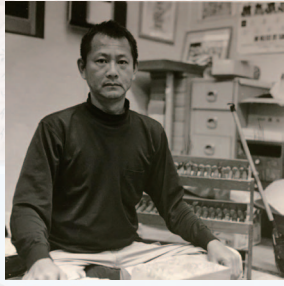
後援：岸和田市・岸和田市教育委員会・淡路市・淡路市教育委員会

特設HP <https://kishiwada1.wixsite.com/kishiwada-awaji>

HP及びチラシ掲載の彫刻作品の一部は写真展示となります。



岸和田彫の魅力を淡路島に訪ねる時空を越えた展覧会。開正藤・生珉父子の作品を中心に、木下舜次郎、松田正幸、木下賢治らの彫刻約 30 点と、彼らが生まれ育った淡路の風景を紹介。地車と太鼓台を結ぶダンジリの語源に迫る講演会と彫物座談会。河合申仁初の芸術作品・国生みー日本濫觴を披露！



◆ 河合申仁 (かわい のぶひと) 木彫刻師 ◆

昭和 43 年 (1968) 大阪府岸和田生まれ。木彫刻「賢申堂」代表。岸和田城下の中心、本町は紀州街道に工房を構え、地車・太鼓台・櫓・播州屋台・獅子頭・社寺彫刻などを幅広く手掛ける。高校卒業後、淡路出身の木下賢治に入門、24 年間木下彫刻工芸で鑿を振るう。平成 22 年独立。親方の名前の一文字を賜り屋号を「賢申堂」とする。木下彫刻工芸時代の代表作に宮本町地車・土呂幕(岸和田市)、中川地車・三枚板(大阪生野区)など。独立後は我孫子地車(泉大津市)、住之江区地車(神戸市東灘区)などがある。三年後に土生瀧町地車(岸和田市)の新調が決定。近年は播州の屋台彫刻の依頼も増えている。



◆ 平田雅路 (ひらた まさみち) 写真家 ◆

昭和 53 年 (1978) 兵庫県淡路市生穂生まれ。大学院を卒業後、淡路島を舞台に野生動植物や地質、伝統文化、産業などを幅広く撮影、「写真的自然観」というテーマに沿って、毎年ウェスティンホテル淡路等で個展を開催。木彫家・一井弘和氏などの作品写真も手掛け、奈良ホテルや日本橋三越本店等、一井氏の木彫展にて作品写真展を同時開催。『改訂淡路学読本ダイジェスト版』(淡路学読本編集会議・淡路県民局)、『淡路信用金庫 80 年史』(淡路信用金庫)の写真構成にも携わる。『2015 JAPAN PHOTO 秋冬コンテスト』佳作、『2016 秋山庄太郎 花写真コンテスト』入選など。流通科学大学写真部講師。



◆ 森田 玲 (もりた あきら) 篠笛奏者 ◆

昭和 51 年 (1976) 大阪生まれ。京都市在住。玲月流初代・篠笛奏者。「ドレミがなくても日本は幸せ」発起人。京都と岸和田を拠点に篠笛の演奏・指導・製作・販売・調査研究を行なう(株)篠笛文化研究社代表。神賑(かみにぎわい)をキーワードに祭の研究を行ない、地車のルーツは川御座船であること、太鼓台のルーツは神輿の触太鼓にあることを明らかにした。岸和田高等学校卒。京都大学農学部卒。なにわ大賞特別賞受賞。文化庁芸術祭新人賞受賞。京都市芸術文化特別奨励者。主な著作に『日本の祭と神賑』創元社、『篠笛事始め』篠笛文化研究社、CD「天地乃笛 - アメツチノフエー」など。

展示・講演会の内容

彫刻展示

開正藤 開生珉
木下舜次郎 松田正幸
木下賢治 ほか
(狭間 置物)

写真展示

平田雅路「淡路の風景と淡路彫」

実演

だんじり彫刻—賢申堂
篠笛製作「岸極(きしのきわみ)—民の謡

彫刻完成披露

河合申仁「国生みー日本濫觴」

講演 各 60 分

・ 11 時 だんじり(太鼓台・地車)のルーツと語源に迫る
【森田 玲】

・ 14 時 彫師が語る「だんじり彫刻」の楽しみ方
【河合申仁】

・ 16 時 座談会—だんじり彫刻を再考する
【河合申仁 平田雅路 森田 玲】